

福島ロータリークラブ会報

RI 2015-16 のテーマ



世界へのプレゼントになろう

2015-16 RI 会長
K.R. ラビンドラン

本日の
プログラム

市内ロータリークラブ新年合同例会

福島・福島北・福島南・福島西・福島中央・福島21・福島しんたつ・福島東RC



新年合同例会次第

合同例会

開会点鐘	ホストクラブ会長	谷口 隆 様
国歌斉唱・ロータリーソング「奉仕の理想」	ソングリーダー	網代 智盟 様
会長挨拶	ホストクラブ会長	谷口 隆 様
来賓並びに参加クラブ紹介	ホストクラブ会長	谷口 隆 様
来賓挨拶	福島県知事 福島市長	内堀 雅雄 様 小林 香 様
閉会点鐘	ホストクラブ会長	谷口 隆 様

祝 宴

司 会	親睦・R家族委員長	榎木 茂 様
挨 拶	パストガバナー	阿久津 肇 様
祝 奏	ピアニスト	富山 律子 様
鏡開き 発声	直前ガバナー	野崎 潔 様
乾 杯	パストガバナー	大橋 廣治 様
「手に手つないで」	ソングリーダー	安斎 重夫 様

ホストクラブ会長挨拶

福島東ロータリークラブ 谷口 隆 会長



みなさま、あけましておめでとうございます。福島市内ロータリークラブ合同新年例会にご出席いただきましてありがとうございます。

福島県副知事 鈴木 正晃様、福島市長 小林 香様にもご臨席頂き開催されますことに感謝申し上げます。今年度ホストを仰せつかりました、福島東ロータリークラブ会長の谷口 隆です、宜しくお願い致します。

昨年は全国的に自然災害にみまわれ、痛ましいことが何かと多い一年でしたが、ここ福島市は災害もなく比較的穏やかに過ごせました。ひとえに皆様方ロータリアンの日頃の善行のおかげではないでしょうか。震災、原発事故より5年を迎えますが、再度の復興の、手助けとなるべくロータリー精神で活動いたします。

ラビンドラン RI 会長の提唱されます「世界のプレゼントになろう」を実践し福島市のロータリアンは福島へのプレゼントになりましょう。

本日おいでの皆様方、各 RC のご発展をご祈念いたしまして御挨拶といたします。本日はおいで頂きありがとうございました。

来賓あいさつ

新年のご挨拶

福島市長 小林 香 様



皆さま、明けましておめでとうございます。

清々しく、希望に満ちた素晴らしい年の初めをお迎えのこととお慶び申し上げます。

本日は、市内ロータリークラブの新年合同例会にお招きいただき、誠にありがとうございます。今年も貴例会が盛大に開催されますこと心よりお祝い申し上げます。

また、皆さまには長年に渡り、崇高な理念と社会奉仕の精神の基に社会貢献活動を続けられ、多大なるご功績をあげておられますことに対し、心から感謝と敬意を表する次第です。

さて、私は市長に就任して以降、「市民主役の市政」を基本としながら、「みんなが誇れる県都ふくしまの創造」に向けて積極果敢に取り組み、一日も早い復興を成し遂げるため、全力を傾注して参りました。また昨年10月には、本市の魅力や特性を活用しながら地域活性化へより一層実効ある取り組みを行い、進行する人口減少に歯止めをかけるため、「福島市人口ビジョン・総合戦略」を策定するなど、目指すべき将来の方向性も定めたところです。

市民の皆さまが安心して働き、安心して子育てができ、安心して住み続けられるまちの具現化に取り組むことで、さらに魅力ある、活力あふれるまちづくりを目指して参りたいと考えております。

本日お集まりの皆さまには、地域社会のリーダーとして今後ますます活躍されますことをご期待申し上げますとともに、引き続き本市発展のためご理解とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

結びに、会員の皆さまがこの記念すべき年を契機として相互理解と連携を一層深められますとともに、本年が皆さまにとりまして希望に満ち、健康で幸多き年でありますよう心からご祈念申し上げ、新年のごあいさついたします。



祝宴あいさつ

新年のご挨拶

阿久津 肇 パストガバナー



改めて新年おめでとうございます。知事さん、市長さんのご臨席を頂き、開催されるこの「市内ロータリークラブ新年合同例会」もすっかり恒例となりました。

1994年、県北のロータリークラブが2つの分区に分かれてから、同じ市内のクラブでも一緒に交流する機会が少なくなりましたので、大変貴重なイベントであると思っています。

さて、新しい年を迎えて皆様は、それぞれ「今年こそは」と心に期するものがあるかと思います。今年度、ラビンドラン国際ロータリー会長は「世界へのプレゼントになろう」というテーマを示され、地区では酒井善盛ガバナーは、「原点回帰」というメッセージを掲げ、「原点に帰ろう」「基本に帰ろう Back to Basic」と言われました。

その昔、ロータリーの創始者ポール・ハリスは、1907年2月にシカゴクラブの第三代目の会長に就任しました。当時のシカゴクラブは、クラブの活動方針を巡って紛争がありました。即ち従来通り相互補助を中心とする親睦派と自分たちのことだけでなく、地域社会に手を差し伸べようという奉仕派の対立であります。

ポールは、心を痛めましたが苦心の末、「ロータリーは親睦と奉仕の調和の中に宿る」と言って親睦も奉仕も共に大切であると述べました。これがロータリーのPolicyであります。

同じように、元RI会長Kendrick Guernseyの「入って学び、出でて奉仕せよ Enter to Learn, Go forth to Serve」という有名な言葉もあります。日本のロータリーの生みの親である米山梅吉さんは、「例会は、人生道場」と言われました。

それぞれ職業の異なる、しかも良質な人々との交流によって自己研鑽を目指す場が「例会」であります。これはロータリーの基本中の基本であることは申すまでもありませんが、最近気になるのは、国際ロータリー理事会の方針の影響もあるのか、この例会出席率がかなり低下していることであります。昨年8月には、全国34地区の中で、我が2530地区66クラブの平均出席率がワーストワンだったことはお気付きと思います。平均出席率が50%を下回ったクラブも見られました。

例会出席の意義をもう一度考え直したいと新年にあたり改めて思いました。